

多発性嚢胞腎専門外来はじめます！

2015年3月5日（木）開始

常染色体優性多発性嚢胞腎は遺伝性の腎臓病の中で最も多く、日本人の約4000人に1人が患者さんです。今までは有効な治療法がなく、およそ半数の方が70歳までに慢性腎不全から人工透析になっていました（透析になる原疾患の第4位）。腎臓機能低下だけではなく、合併症の脳動脈瘤からくも膜下出血をきたす例や、心臓弁膜症、嚢胞感染、肝機能障害を起こす例もある疾患です。

そのため、専門医による診察が必要と考えられます。平成26年4月よりトルバプタン（サムスカ®）が腎嚢胞拡大抑制と腎機能保護作用をもつ薬剤として適応となりました。また本年1月より本疾患が特定疾患に指定され、専門医による申請手続きを行うことで、患者さんの経済的負担の軽減が可能となっています。

京都市立病院腎臓内科では、多発性嚢胞腎の専門外来を、**毎月第一木曜日 午前中**に開設することにしました。腎機能や合併症の検査を行い、適応があれば難病申請およびトルバプタンによる治療を行います。

30代、40代ではほとんど自覚症状が無いことも多いため、診断確定が遅くなる傾向があります。家族性に腎機能低下がみられる症例など、本疾患が疑われる成人患者さんがおられましたら、地域医療連携室を介して当外来（富田真弓医師宛）にご紹介いただければ幸いです。



厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業
難治性腎疾患に関する調査研究のホームページより転載

ご予約・お問い合わせは

京都市立病院
地域医療連携室まで

電話：075（311）5311（代）
FAX：075（311）9862（直通）